

氏名	清水池 義治 (シミズイケ ヨシハル)
所属	名寄市立大学保健福祉学部教養教育部
職名	講師
研究室連絡先	電話 01654-2-4199 (3304) FAX 01654-3-3354 E-mail shimizuike@nayoro.ac.jp
ホームページ URL	

学歴	2004年3月 北海道大学農学部農業経済学科卒業 2006年3月 北海道大学大学院農学研究科生物資源生産学専攻修士課程修了 (農業市場学分野) 2009年3月 北海道大学大学院農学院共生基盤学専攻博士後期課程修了 (食料農業市場学分野)、博士 (農学)
職歴	2004年4月～2009年2月 北海道大学ティーチング・アシスタント 2006年5月～2008年9月 雪印乳業 (株) 酪農総合研究所非常勤研究員 2009年1月～ 名寄市立大学保健福祉学部講師
学位	博士 (農学) (北海道大学、2009年3月)
免許・資格	なし
研究分野	農業経済学、農業市場論、食品産業論、地域経済論
現在の研究課題	酪農と乳業の産業間関係 「地方自然公園」制度を活用したボトムアップ型地域振興の可能性——天塩川流域を対象として—— 亜麻栽培を通じた地域ブランド価値の向上メカニズム
主な担当科目	経済学、現代経済論、北海道の農と食、食料経済学、基礎演習Ⅰ・Ⅱ

研究・教育業績	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単著：清水池義治『生乳流通と乳業——原料乳市場構造の変化メカニズム——』（酪総研選書 No.90）、デーリィマン社、2010年。 共著：清水池義治「国際乳製品市場の動向と日本への影響」出村克彦・中谷朋昭編著『日豪 FTA 交渉と北海道酪農への影響』（酪総研選書 No.88）、デーリィマン社、pp.33-59、2009年。 共著：清水池義治「業務用乳製品市場の諸類型——乳業メーカーの市場対応による類型化——」土井時久編著『業務用乳製品のフードシステム』（酪総研選書 No.87）、デーリィマン社、pp.72-101、2008年。 <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清水池義治「生乳生産者団体の原料乳分配方法による原料乳市場構造の変化——北海道指定生乳生産者団体ホクレンの『優先用途』販売方式に着目して——」『農業市場研究』第18巻第2号、pp.11-20、2009年9月。 清水池義治・並木健二「大手乳業資本のチーズ増産要因に関する一考察」『2007年度日本農業経済学会論文集』、pp.210-217、2007年12月。 清水池義治「北海道における大手乳業資本の生産設備投資・運用に関する考察——『資本蓄積構造』の視点から——」『農業市場研究』第16巻第1号、pp.1-9、2007年5月。 <p>【学位論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清水池義治「原料乳市場構造の変化メカニズムに関する研究——乳業資本および生乳生産者団体の市場行動に着目して——」、北海道大学大学院農学院共生基盤学専攻学位論文、2009年3月。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清水池義治・工藤慶太・西村直道「道北地域資源を活用した地域ブランドの形成と管理——『なよろブランド』の可能性——」『地域と住民』第28号（名寄市立大学道北地域
---------	---

	<p>研究所年報)、pp.53-64、2010年3月。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水池義治・雪野継代・木村洋司・播本雅津子・三島徳三「道北地域における地域資源活用型アグリビジネス起業戦略と成立条件」『地域と住民』第28号(名寄市立大学道北地域研究所年報)、pp.27-35、2010年3月。 ・バルジンニヤム=マイツェツェグ・清水池義治・飯澤理一郎「モンゴルにおける食肉流通・市場構造の変化と現状——ウランバートル市フクト・ションホール食料市場を事例として——」『農経論叢』(北海道大学大学院農学研究科紀要別冊) vol.62、pp.89-97、2006年3月。 ・清水池義治・飯澤理一郎「乳製品過剰下における乳業資本の収益構造に関する考察——雪印乳業食中毒事件の背景を視野に——」『農経論叢』(北海道大学大学院農学研究科紀要別冊) vol.61、pp.223-234、2005年3月。
--	--

学会活動	日本農業経済学会、日本農業市場学会、日本フードシステム学会、日本流通学会、日本畜産学会、日本酪農乳業史研究会、北海道農業経済学会、北海道農業研究会
------	---

社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道地域・自治体問題研究所(一般会員:2009年～、理事:2009年～) ・道北の地域振興を考える研究会(一般会員:2009年～、事務局:2010年～) ・北海道合鴨水稻会(一般会員:2009年～、監査:2010年～) ・道北作物学会(一般会員:2009年～) ・社団法人名寄青年会議所(会員の未来構築委員会委員:2010年～) ・講演:「名寄市立大学と地域の連携——『食育』を軸に——」、名寄市立大学と地域の連携を考える研究会、名寄商工会議所工業振興委員会、2009年3月。 ・雑誌記事:「新たなカテゴリー生み出した成分調整牛乳」『デーリイマン』第60巻第7号、pp.23-24、2010年7月。 ・雑誌記事:「チーズ・生クリーム支援で国産への代替促進を図る」『デーリイマン』第60巻第5号、pp.24-25、2010年5月。 ・雑誌記事:「牛乳消費の減少と躍進する成分調整牛乳」『農村と都市をむすぶ』第60巻第4号、pp.62-65、2010年4月。 ・雑誌記事:「農業構造大変革の時代①食品産業:地域に根差したブランド化が鍵」『ニューカントリー』第57巻第4号、pp.84-85、2010年4月。 ・雑誌記事:「不足払い制度と用途別乳価の現代的意義」『中酪情報』No.523、pp.2-3、2009年9月。
------	--

受賞	なし
----	----

コメント	<p>名寄をはじめとする道北地域は、農林水産業などの一次資源にたいへん恵まれています。その一方で、道北の地域経済を取り巻く外部環境は厳しさを増し、地域の経済・生活・教育・福祉の持続的発展が脅かされています。これからの時代は従来とは異なった視点からの地域経済の振興・再構築が求められていると考えます。フランスの「地方資源公園」制度や地域ブランドをキーワードに、道北の地域資源を活用した持続的・自律的な地域経済のありようを考察していきます。</p> <p>また、農業地帯である名寄の特性を生かして、講義「北海道の農と食」では地元農家への農作業体験実習を実施しています。2010年度では60名の学生が実習に参加し、地域への理解を深めています。</p>
------	--